

第3回委員会（先進地視察）の報告について

（※視察に関する資料や写真については、省略）

1 多賀城市立図書館視察報告（ポイント）

・CCC（カルチャ・コンビニエンス・クラブ）が企業誘致に応じてくれ、指定管理者となった。震災復興のシンボルとして整備。どっちが先かによく聞かれるが、どっちが先ということはない。

・新しい図書館は、人材と市民生活を第一にしている教育施設である。文化センターもあるし、史跡や東北学院大学の工学部もあるなど教育文化の伝統的な施設があるため、東北一の文化交流地点、中核施設にしようとなった。

・市民利用率50%を超えることが、目標だった（人口6万人）。今までの市民利用率が1割であったため、目標値はかなり高いものである。

・コンセプトは、家族が絵になる図書館。図書館は家であり、成長を見守るところ、癒しであり、自分の空間が確保されているところである。滞在型。教育、繋がり、行けばいつも何かやっている、人が集まる施設になる。上の階に上がるほど静かになる。1階はリビング、2階は書斎のような空間、3階は専門書などがある学習の場をイメージしている。

・開館時間については今までの1.3倍。閉館時間を17時から21時30分までに延ばし、365日開館している。大変喜ばれている。

・サービス機能については、タブレット端末を16台配置した。サービス機能については、全くやっていたわけではなく、充実させた。特に話題になるのが読書通帳である。大人でも料金を支払えば使える。小中学生には無料で配布していて、読書の励みになっている。

・目標値は、旧図書館時、来館者数10万人、図書貸出33万冊だったものを、新館では、来館者数120万人、図書貸出66万冊と設定。これまで、A棟（図書館が入っている棟）に来館した人が、4月26日までで20万人、5月18日までで30万人、7月2日までで50万人を超えている。120万人という目標を立てたが、10月頃に100万人を超える勢いとなっている。

（質疑応答）

Q 選書は誰がしているのか。

A 指定管理者が提案し、指定管理者側で選書会議を開き、リストを作成してもらう。その後、リストを元に教育委員会で審査をするという流れになっている。教育委員会に司書資格を持つ職員もいるし、指定管理者に丸投げの発注ではなく、教育委員会が責任

を持って市民のリクエストにも応えている。

Q 図書の利用カードは、Tポイントカードなのか。

A Tポイント付きのカードか旧図書カードか選べる。Tポイントカードについては、図書館の情報が、CCC側に行くことはないようになっている。純粹に図書館を利用するためだけのものになっている。

Q どちらのカードの利用率が高いか。

A Tポイントカードの方が、利用率高い。新しく作る人は特に多い。子供の場合は、旧来のカードが多い。

Q 選書は、市民のリクエストを受け付けるシステムがあるのか。

A ある。全てではないが、市民のリクエストは検討の材料としている。ベストセラーの本をたくさん入れてほしいというリクエストがきても、原則副本は持たないことにしている。人気の本を置いて、利用率を上げようということはしていない。

Q 多賀城駅と図書館との接続は、どうなっているのか。

A 駅から歩いて行ける距離にある。建物は別々になっている。

Q 指定管理ということで職員が結構いる感じがするが、分館含めて指定管理なのか。

A 分館含めての指定管理である。

Q 移動図書館について、学校図書館にも指定管理者側を派遣しているのか。

A 指定管理の前から小学校の学校司書は図書館から派遣していた。指定管理になったのをきっかけに中学校にも派遣するようになった。学校の司書教諭と協力しながら、学校図書館を運用するのが学校司書である。分館は地区公民館の中にあり、2館ある。その他に、文化センターの中に中央公民館の図書館があるが、少し離れた場所にあるので、その中に図書館の分室を置いている。そこを運営しているのが図書館から派遣されている司書である。公民館の図書館は月曜休みになる。

Q 365日開館だと思うが、図書館を利用する人が増えたのはどのような層か。

A 駅利用者であった若い層やサラリーマンが増えた。中学生、高校生、大学生も増えた。

Q 開館して好評なサービスは何か。

A 土日や夜9時までの開館が喜ばれている。人が増えて、対応が大変なときあるが、借りられている本も多いし、喜ばれていると思う。

Q 職員体制65名ということで交代勤務だと思うが、2交代か。

A 3交代でしている。社員だと8時間労働で、2交代くらいでしている。契約社員やバイトの人だと本人の希望や事情により3交代くらいでやっている。

Q 一番忙しいピーク時で、何人の勤務体制となっているのか。

A 30人くらい。土日だと図書館だけでなく、蔦谷書店も忙しいので、共有のスペー

スにも人がいて、整理もしなくてはならないため、30人くらいいる。

Q 仙台市が近いと思うが、利用者カードの多賀城市内と市外どれくらいの割合か。

A 市内が6割。次に宮城野区（仙台市）、塩釜市と続く。

Q 指定管理者と生涯学習課の役割・リスク分担において、ポイントや気を付けているところがあれば教えてほしい。

A 年度協定をしっかりと結ぶこと。例えば、修繕のときなどの約束。裁量でやっていいこと、許可をとらないとやってはいけないことを書面できちんと取り交すのが大事だと思う。多賀城市は指定管理者の施設が多い。相手方によってどれくらいの度量なのかを見ながら気を付けている。月に1、2回指定管理者と会議をして頻繁に顔を合わせ、苦情や要望の共有化をしている。社風、行政としての風土によって調整が難しいところもあるが、人と人との繋がりだと思う。

Q 生涯学習課で図書館に従事している職員数は、どれくらいか。

A 2人がメインでしている。2人とも図書館で働いていたので、仕事内容は理解している。

Q 駐車場の運営だが、料金収入だけで運営しているのか。それとも市からお金が出ているのか。

A 部局が違うので詳しくないが、駅前の南側C棟（駐車場）は駅を利用する人は誰でも1時間無料になっている。図書館や子育て施設利用者は2時間無料。多賀城市は車社会なので、このような設定となっている。図書館に入っているレストランで駐車場のサービス券を配っている。

自転車については、50台無料で、通勤・通学者の場合は、50円で止めている。

2 紫波町図書館視察報告（ポイント）

- ・毎朝の開館時間には、司書がデパートのように玄関でお出迎えをする。市民との声掛けを意識してのもの。市民にも少しずつ浸透している。face to face のコミュニケーションが一つのキーワードとしている。
- ・施設の不便さの苦情もコミュニケーションの始まりと考えている。
- ・出来て4年の図書館で、町としては初めてのきちんとした図書館で、トライ&エラーで取り組んでいる。しがらみが無いという強みもある。
- ・町の位置としては、半径30kmで人口62万人ぐらいの圏域を形成。北東北では一の人口圏を構成。食糧自給率170%。農業人口は10%未満だが、農業が基盤。農業が元気でないと、紫波町も元気でない。
- ・図書館建設の要望は、ここ10年ぐらいで大きくなってきた。市民活動が盛んになってきたことも要因と考える。オガールプロジェクトの中でも、集客力のある図書館の整備が考えられてきた。
- ・現在、図書館所管は、補助執行で町長部局が担当している。教育施設以外としての活用も図っていききたいため。
- ・住民説明会をしたが、計画当初は、図書館不要の意見が多かった。それよりも道路などのインフラの方が優先。完成した途端、反対意見は無くなった。だからと言って、図書館に来る訳でもない。なので、もう一つ見える形で成果を表したいということで、ビジネス支援（農業支援）に取り組んだ。秋田県立図書館は東北管内では、その道ではトップクラスで、紫波町では山崎副館長から指導を受けて取り組むことにした。
- ・図書館法上の図書館にプラスして、コミュニティ、経済、産業を情報の輪でつなぐ役割を担っていると考えている。
- ・町のまちづくりの目標達成に向けて、図書館として何ができるかを考えた場合、本の貸出しという通常の業務に加え、常に外と連携を図り、つながりを持ち、イベントなりサービスを構築していくことを考えている。司書が、地域に飛び出してネットワークを構築。図書館だけでは、マンパワーの限界があり、役場の企画課も協力して、事業を実施している。
- ・ひろがる図書館を目指している。
- ・昨年、調べる学習コンクールに取り組み、初回で、町内から大臣賞の最高賞が出た。
- ・児童フロア（赤ちゃん部屋含め）は、施設配置上、静かなスペースと賑やかスペースの区分を付けるため、前面に配置。

- ・運営体制は、正職員1名と嘱託11名。
- ・町内の図書館利用カードの登録数が伸びない。1/3満たない。ここが課題。

・町民満足度調査を実施しているが、下水道などの生活インフラと比較すれば図書館の満足度、重要度は低い。オープン以降上昇しているが、重要度が満足度を越えられないでいる。この辺の分析が難しい所と考えている。

(質疑応答)

Q デザイン会議との現在の関わりは。

A 稼働後は、時々いらっしゃる程度となっている。

Q 図書館の職員の人材育成は、どうしているのか。

A 実際には、能力がある者が、最初にいたというのが大きい。秋田県立図書館の協力のもと、現在の主任司書を紹介してもらった。今も、その主任司書のネットワークが生きている。司書を育てるのは実際難しい。図書館の中だけで仕事をしたがる。そのため、外の人と話すのが苦手。今は、イベント担当を置いて、外に出てもらおうという実践でもってやっている。講習会もやっているが、あまり効果無いと思っている。

Q 62万人の圏域ということだが、北上、花巻、盛岡などの登録者数は、どうなっているのか。

A 町外の登録者数は伸びている。一番多いのは、隣町の矢巾町。紫波町は、産直の町(町内10箇所)でもあり、ドライブついでに寄る方が多い。

Q 図書館の基本構想、基本計画策定時点では、4年後の現在の状況まで(イベントや企画の充実)にイメージ出来ていなかったと思うが、現在の至るまでのモチベーションはどこにあったのか。

A 結局は人であると思う。自分も、建設当時は、単に図書館ができるぐらいにしか思っていなかった。その後、館長に就任する際、町長から図書館らしくない図書館を作れと言われてきたことで、いろいろと取り組んでこられたのかなと思う。ラッキーだったのは、3年前に開催した岩手文庫というイベントで、出版社等と繋がりが出来た。それをキャッチしたのは、現在の主任司書であり、資質の部分も大きい。そこから、ひろがっていった。

Q 図書館として力を入れている分野として、子どもたちの読書支援、0歳から高校生までとあるが、どのような取り組みを行っているのか。

A 3割ぐらいが児童書になっているが、貸出しの占める割合が、50%となっている。その意味で、もっと児童書の充実が必要と考えている。お話し会はやっている。ボランティアも5つある。司書では、サイエンスお話し会をやっている。その程度しか行っていない。毎月の企画展示では、大人部門と子ども部門あるので、力を入れてやっている。総じて、模索しているところである。

酒田コミュニケーションポート（仮称）整備検討委員会 先進地視察報告まとめ

1 各施設の良かった点や、本市の新しい施設整備や運営の参考とすべき点について

(1) 多賀城市立図書館

①良かった点

項目	感想等
全般	<ul style="list-style-type: none"> ・集客力が素晴らしい。カフェや書店はもちろん、図書館にもたくさんの方がいる。「わあ、すごい。どこから見てみようか？」（中年女性の二人連れ）。最初は、こんなふうを訪れる人が多いのだろう。 ・被災地の復興を民間の力を借りてできた点は良かった。 ・貸すだけでなく書店やカフェ等が併設しているので、借りた本や買った本をカフェ等ですぐに読め、図書館で気に入った本をすぐに買えるのがいい。
施設等	<p>ア 若い世代向け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者好みの魅力あるカフェ、書店、コンビニ、レストラン等が併設されている点が強みである。 ・おしゃれな雰囲気を利用してみたいくなる雰囲気だと思う（特に若い人が好きそう）。 <p>イ 空間（設備）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館内部はゆとりのある空間が広がり、落ち着いた雰囲気で長く滞在したくなる。 ・館内で、飲み物がOKとしたことで、これまでの図書館の堅苦しい雰囲気を緩和できていると感じた。 ・各フロア内に、イスや机が随所に、様々な形態であり、それぞれ雰囲気が違うのが良かった。 ・「家」をコンセプトに、1階を賑やかなリビング、2階を落ち着いた読書ができるプライベートな空間、3階を学習や仕事に集中できる静かな空間と、目的の異なる利用者が互いに干渉しないレイアウトとしている点は良かった。自分に合った居場所を選べる。 ・遠回りせず、自分の行きたい方向に行ける。 ・子ども用トイレ、授乳室、キッズテラス、拡大読書機 <p>ウ サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書サービスとして、タブレット検索機（16台）が配置され、タブレット端末の貸出し機（14台）があり、またWi-Fi環境が充実していた。 ・開閉館時間の延長は、利用者にとって良いと思われる。 ・イベント等の充実 おはなし会（週4回）、映画上映会、ワークショップ（初めての英語多読）、トークイベント（羽田圭介） ・フロア担当司書の配置（スタッフ数の充実）や読書通帳（子どもの読書関心）などは、良い取り組みと感じた。 <p>エ 蔵書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルジャン分類での配架の工夫がなされ、初めて訪れる人でも本を探しやすい。 ・ヤングアダルトコーナーの設置

②その他の感想

項目	感想等
全般	<ul style="list-style-type: none"> ・ギャラリー、イベントスペースが3階にある。イベントや市民を巻き込んだ交流づくりが組みづらいのではないかと。 ・スタッフ65名、年間2億7千万円の指定管理料に、市民がどのように評価されているのかが気になった。 ・良くも悪くも、書店やカフェも含めた施設全体がCCCのコンセプトで作られており、図書館の機能・役割がそこで完結し、外とのつながりや市のまちづくりの思いや考え方が反映されていないと感じた。
施設等	<p>ア 空間（設備）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市立図書館と書店や飲食店（カフェやレストラン）等の商業施設とが一体化した施設は斬新であったが、市教育委員会からの説明にあったリビングルーム（1階）書斎（2階）仕事の間（3階）のコンセプトは、現場では実感できなかった。書店とカフェの空間に強烈な印象を受けて図書館が影に隠れた感が否めない。 ・図書館と書店の区別が分かりにくく、初めての方や高齢者は戸惑うのではないかと。 ・見せ書棚が、圧迫感を感じた。 ・児童図書のスペースが少し狭いかなと感じた。 ・車椅子が用意され多目的トイレも設置されていたが、身障者が利用しやすい施設になっているのか疑問を感じた。 ・図書館ゲートの直近に図書館職員がいない配置は、問題と感じた。実際、ゲートが鳴ったが誰も対応していなかった。 <p>イ サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「集客力をもった本のある公共空間」「公設民営のブックカフェ」等と、評価・指摘された武雄市立図書館の大きな問題点は二つ、一つは「図書カードがTカードとしても利用可能なことによる個人情報流出」、そしてもう一つは「選書に関わるトラブル」であった。この二つの問題点について、多賀城市立図書館においては説明を聞く限りでは、解消しているようである。 ・休館日がないということの持つ意味を検討する必要がある。 ・レファレンスカウンターが表示がない。おそらくカウンターでサービスを受けることはできると思うが、表示をして積極的なレファレンスサービスがあってもよい。 <p>ウ 蔵書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷土資料の扱いに問題を感じた。鍵をかける場所はできるだけ少なくし、開架資料を多くしたらと思った。 ・閉架図書のオーダーがあった場合の職員対応や、本等が常時照明にあたっている状態について、課題を感じた。

	<p>エ スタッフ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の対応や雰囲気、マニュアル的な感じがした。 ・図書館の雰囲気を印象付けるのは人である。視察前に会議室で受けた説明と、現場との違和感は、職員の対応にあるような気がする。運営する職員に伝わっていないような気持ちになった。 ・3層構造、開館時間が長いこともあり、3交代という話だったので、スタッフのやり繰りは、結構厳しいのではないかと感じた。
--	--

(2) 紫波町立図書館

①良かった点

項目	感想等
全般	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ建物に交流館、子育て支援施設（学童保育、一時預かり保育等）、産直、カフェ等が、また近くには役場、体育施設、紫波中央駅等があり、図書館のあるオガールプラザ帯は多くの人々が自然と集まるような場になっている。一日いても飽きなそう。 ・新駅（紫波中央）誘致の際、町が開発する予定の敷地を、民間活力を中心にうまく開発が進んだ非常に良い例。公共施設導入も集客力という面で図書館（+ミニ文化センター）を選択したという路線は、紫波町にきちんとした図書館がなかった、という事を除いても、良い選択かと思う。 ・最近の図書館運営のひとつの方向性として、他施設・機関との「コラボ」があげられるが、そういったやり方をうまく活用しているようだ。 ・この地域全体が、オガールプロジェクトというまちづくりの理念が経営に浸透しているという印象を受けた。 ・「建築コストを抑えるつくり」（天井を貼らないで建物にコストをかけない）「木材の使用やエネルギー施設などの環境への配慮」（建物に地元産材を多用）など、身の丈にあった施設を作るという姿勢が感じられた。 ・どのようなプロセス・方法で、市民意見を反映させていったか参考にしたい。 ・運営面で、図書館機能に交流機能を加えて、常に外とのつながりや連携を考えた「ひろがる図書館」を標榜し、地域の図書館として手づくり感のある運営をしているところに魅力を感じた。
施設等	<p>ア 若い世代向け</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽スタジオなど若者の居場所を設けている点は、高校生の居場所がないとの声がある本市でも参考にすべきと思う。 <p>イ 空間（設備）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童関係の空間を入りに近くに設定したことは、良かったと思う。 ・子ども用トイレ、授乳室 ・地震対応の書架（三方向減震装置、傾斜スライド等） ・専用レファレンスカウンターの設置。見やすいように表示され、主任司書が配置されている。 ・アットホームでゆっくりできる雰囲気が良かった。 ・明るい雰囲気でも色使いもカラフルで子供も利用しやすい感じがする。 ・身の丈サイズのシンプルなつくりの図書館に好感が持てる。 ・秋田県立図書館の副館長がアドバイザーとした図書館ということで、館内の書架・閲覧スペース等の配置など、ゆったりとした落ち着いた空間となっており、好感が持てる。 <p>ウ サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多賀城市立図書館と比べると施設・設備にはお金はかかっているが、館長や司書等が創意工夫し、運営している手づくり感のある図書館である。 ・教育という枠を越えての交流ということで、町長部局が所管（補助執行）していることは、参考になる。 ・町長部局（企画部門）と連携し、また地域の人とつながりながら多彩なイベントを実施している。「おはなし会」「絵本の中のクッキング」「夜のとしょかん」等 <p>エ 蔵書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで図書館のなかった人口3万3千人の紫波町の新しい図書館は、近隣の盛岡市、花巻市、矢巾町等からの利用も含めて利用者数を年々増やしている。（貸出密度 7.7冊・・・貸出冊数÷人口） ※酒田市4.9冊 ・ビジネス書が、豊富にあった。 ・ティーンズコーナーの設置 ・本の置き方が、分かりやすかった。 ・本棚が低くて、子供が一人でも本を選びやすそうがいい。 <p>オ スタッフ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紫波町図書館の第一印象は、説明してくれた館長の図書館経営に対する思いの強さであった。 ・オガールプラザ設立の理念や図書館建設に関わった関係者の意向を受けての言動に、感じるものがあった。 ・館内を視察している最中に会った職員の対応も好感の持てるものであり、物的な環境だけでなく、人的な環境の重要性を認識することが出来た。

②その他の感想

項目	感想等
全般	<ul style="list-style-type: none"> ・家族連れなどは行きやすいと思うが、一人でふらっと行きやすいのは多賀城の図書館かなと思う。 ・町の施設ではあるが、部屋等の名称に「市民・・・」と付いていたのは意外だった。

施設等	<p>ア 空間（設備）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勉強するスペースが、無機質だった。 ・施設構成がミニ文化センター的なこともあり、施設としての使い勝手は良さそうだが、視察で使用したスタジオは若干狭い感があった。 ・幼児用の読み聞かせスペースは、酒田の場合を考慮すると少し狭い。酒田の場合は、もう少し配置や形状を配慮する必要あり。 ・食事可のスペースは少し狭いような気がした。こういった空間は、少し「わいわいがやがや」的な使い方に誘導するという方法もありかと思えた。
-----	--

2 全体通しての感想、意見

○若い世代向け

- ・これからの図書館は、付帯施設も含めて、特に若者に魅力のある施設でないと人が集まらない。高校生から 30 才位の今まで図書館に目を向けなかった年齢層の人たちに足を向けさせる工夫をしていくことも大切である。

○サービス、施設のあり方

- ・より多くの市民の共有の財産として生きていくためには、建設時の計画策定で終了のするのではなく、その理念や目標を達成するために、継続して挑戦して運営していく姿勢が必要であり、その仕組みづくりが大事になってくる。
- ・設備の立派さや素晴らしさだけでなく、これからの酒田市を創っていく市民が今後何十年も利用するにふさわしい図書館にしていく必要がある。そのためには、ハード面だけでなく、ソフト面の充実も図っていくことが大切である。
- ・「人を集めるための公共機関」としての図書館として、単ににぎわいを創出するだけの図書館になって欲しくはない。
- ・図書館は「来館者数」や「利用者数」を増やすだけでなく、地域や地元の人々が抱える課題の解決を支援していけるような課題解決型図書館を目指すことが求められている。そういう観点からも市図書館のあり方を検討して欲しい。
- ・酒田市に行けば、こんな特徴のあるこんなすばらしい図書館に出会える。そんな酒田らしい特色の表れた図書館を目指して欲しい。
- ・放課後、子どもたちがふらりと訪れることのできる図書館。（浜田学区の子どもたちだけでなく近隣の琢成や若浜学区の子どもたちも）

○施設・設備面

- ・集会や講演会や映画ができる小スペースの整備
- ・郷土資料（両羽博物図譜等）が 4 K モニターで視聴できるコーナー
- ・デジタルアーカイブの整備
- ・子どもから大人まで、誰でも気軽に相談できるレファレンサーサービスの充実
- ・子どもたちが少しのおしゃべりや遊びのできるスペース（子どもたちが少々うるさくしてもよい空間）

市民意見交換会等の経過、今後の予定について

- 6月中旬 酒田駅周辺整備事業の提案内容に係るアンケート調査、意見交換会（子育てママさん、酒田光陵高校、酒田青年会議所）
- 7月12日（火） 子育てママさん（副市長グループミーティング）
- 7月20日（水） 読み聞かせボランティア（あさの葉会）
- 7月25日（月） 酒田商工会議所情報・サービス部会
- 7月30日（土） 読み聞かせボランティア（絵本の部屋）
- 8月1日（月）～8月22日（月） 市民アンケート調査
- 8月9日（火） （社）子どもの読書サポートアシード
- 8月22日（月） 松陵学区コミュニティ振興会
- 8月下旬～9月9日（金） 高校生アンケート調査
- 8月31日（水） 障がい者福祉会
- 9月下旬～10月下旬 市民ワークショップ（全3回：9/22、10/2、10/22）
- 10月 高校生ワークショップ（東北公益文科大学連携）

※市ホームページ等でも意見をいただいています。また、その他にも各団体等との意見交換の実施に向けて調整中であります。

これまでの本委員会での意見と、アンケート・意見交換会等での意見を、テーマ、内容ごとに整理したもの

【学 び】

蔵 書

- ・ 地域、庄内、北庄内の情報・資料の収集・保存
- ・ 光丘文庫の図書の展示
- ・ ヤングアダルトコーナー（漫画等）の充実
- ・ 大学受験の赤本の設置の充実
- ・ 英語を勉強する機会や場所の特化した機能の設置
- ・ 酒田市の各種計画等の行政資料のコーナーの設置
- ・ 絵本、児童書の充実（科学の絵本など）
- ・ 高齢者向けの大型活字本（点字本や音訳CDも含めて）の充実
- ・ 魅力的な本の選書・紹介

サ ー ビ ス

- ・ 年を重ねても利用できる場所（高齢者の居場所として）
- ・ 団塊の世代の方が活躍できる場づくり、ニーズへの対応
- ・ 高校生、学生が気軽に過ごせる場所
- ・ 中高大学生の声を聴いての自分たちの施設化
- ・ 市民が本を持ち込めるリサイクルコーナーの設置
- ・ 利用者のオーダーに合わせて紹介してくれる本のコンシェルジュの配置
- ・ 子供の流行と教育を結びつけた企画の実施（例：妖怪ウォッチ三国志から、その本を充実させたブースや企画コーナーなど）。
- ・ レファレンス専用のコーナーの設置
- ・ 指導者を育成する場

市 民 活 動

- ・ 市民司書の創設
- ・ 高校生ボランティアの活用
- ・ 大学生→高校生→中学生→小学生と勉強を教えあえる環境作り（多世代交流）
- ・ 地域の人が先生になる地域先生講座の実施
- ・ 子供が先生になって実施する子ども先生講座の実施

施 設

- ・ 十分な学習スペースの確保
- ・ 学習室への電源、コピー機の整備
- ・ ラーニングcommons

学 校 連 携

- ・ 学校との交流、支援を増やすことでの学生が利用しやすい図書館
- ・ 子供たち（特に中高生）への図書館の利用方法の説明、周知
- ・ 高校生、学生の利用促進のための学校図書館との時間や機能での差別化

【子育て】

蔵書

- ・絵本、児童書の充実（科学の絵本等）（再掲）

施設

- ・くつろげる広さの児童図書室（親子の憩いの場）
- ・小さな子どもとお弁当が食べられる飲食スペース
- ・乳幼児の遊べるスペース（カーペット床の整備など）
- ・子ども広場
- ・噴水等の水遊び場の整備
- ・授乳室の整備
- ・読み聞かせ部屋の充実

サービス

- ・託児サービス
- ・負担の掛からない返却システム（ドライブスルー等）
- ・子育て中の親が連れて来やすいようにキッズスペースに幅広い年齢に対応できるAVコーナーなどの設置
- ・子どもだけのイベント（親の時間の創出）
- ・乳幼児の読み聞かせイベント・PRの充実

【交 流】

サービス

- ・開館時間を夜 9 時まで延長（仕事帰りの社会人、試験対策の学生等）
- ・年を重ねても利用できる場所（再掲）
- ・遊び心のあるサービスの充実
- ・魅力あるイベントの開催
- ・中高生、学生向けのイベントの充実
- ・本のコンシェルジュの配置（再掲）
- ・「本」にまつわるイベント、ギャラリーの充実
- ・地域間の連携の充実

市民活動

- ・市民間でのイベントや交流の促進
- ・市民が本を持ち込めるリサイクルコーナーの設置（再掲）
- ・自分の取組みが発表できる場の整備
- ・地元の人がすすめる酒田の名所を紹介するコーナー
- ・市民司書の創設（再掲）
- ・大学生→高校生→中学生→小学生と勉強を教えあえる環境作り（多世代交流）（再掲）
- ・市民の施設運営への参画
- ・地域人材の活用
- ・図書館ボランティア団体への支援

施設

- ・くつろげる広さの児童図書室（再掲）
- ・静かなスペースと、賑やかスペースの住み分け（ソフトバリケードなど）
- ・隣の人が気にならない開放された読書スペース
- ・小さな子どもとお弁当が食べられる飲食スペース（再掲）
- ・気軽にお茶とか飲めるスペース
- ・高齢者や障がいを持つ方が気軽に休めるスペースの確保
- ・空き時間など気軽に立ち寄れる雰囲気づくり
- ・パソコンの持込可能スペースの充実
- ・フリーWi-Fiの設置
- ・学習室への電源、コピー機の整備（再掲）
- ・建物の内部だけでなく周辺環境の空間の快適性
- ・多目的な活動に利用できる部屋の整備

カフェ

- ・地元の食が楽しめる場
- ・市民がルール作りをした制約の少ないカフェ
- ・カフェやギャラリーなどの空間の充実による図書館以外利用者の機会の増加
- ・夜の時間帯のアルコール提供
- ・うるさすぎず、静かすぎない場所
- ・時間と本を求める利用者のための雰囲気づくり

【情報発信（観光）】

蔵書

- ・ 光丘文庫の図書の展示（再掲）
- ・ 酒田のおいしい物、職人の技、世界へ向けての発信等のスペース
- ・ 酒田の情報発信コーナーの充実。港、歴史、文化、文学、芸術、食など。
- ・ 市出身吉野弘氏の記念ブースの設置

観光

- ・ 酒田の特産物、土産が必要
- ・ 酒田のおいしい物、職人の技、世界へ向けての発信等のスペース（再掲）
- ・ 酒田の情報発信コーナーの充実。港、歴史、文化、文学、芸術、食など。（再掲）
- ・ 酒田駅が目的地になるストーリーツアー化
- ・ 地元ならではの情報や発見ができ、その土地の人と交流できるスペース（体験コーナー）
- ・ 地元の人のおすすめする酒田の名所を紹介するコーナー（再掲）
- ・ 酒田ならではの図書館でPR
- ・ おもてなしの心が大事
- ・ 英語等の外国語への対応

サービス

- ・ 地域情報の集まる場所を目指す。
- ・ 地域のコンシェルジュの配置
- ・ 子供たち（特に中高生）への図書館の利用方法の説明、周知（再掲）
- ・ ホームページの充実
- ・ facebook等を活用した情報発信
- ・ 検索に便利なスマートフォン対応のHPの開設
- ・ イベントやUIJターンの情報発信

アクセス

- ・ 観光客、登山客（鳥海山等）の交通手段の充実

【その他】

蔵書

- ・ 県内、市内の蔵書のパソコンによる横断検索の周知
- ・ 探しやすい図書の並べ方（作家ごと等）
- ・ 選書（テーマごとのコーナーを作る）などの工夫
- ・ 魅力的な本の選書・紹介
- ・ 利用者が見たいと思うような工夫、魅力アップ（本のレビュー、ポップ、並べ方、見せ方）
- ・ 企画展示の充実

サービス

- ・ 返却ポストの利用時間の利便性向上
- ・ 分かりやすい場所への返却ポストの設置
- ・ 公益文科大学や分館との連携強化
- ・ 各地区コミセンの図書の充実

施設

- ・ 十分な閉架書庫の整備
- ・ 子育てだけでなく、介護、障がい者、移住者、外国人の視点からの設計
- ・ バリアフリー化
- ・ 緑化の推進

運営

- ・ 経費削減のための大型書店への委託
- ・ 司書の人材育成、人材の全国公募
- ・ 継続した施設運営のあり方の検討

駐車場

- ・ ライブラリーセンター近くへの駐車場整備
- ・ 無料駐車場
- ・ 十分な駐車台数の確保
- ・ バリアフリー化（再掲）
- ・ 駐車場～施設までの動線（利便性、安全性）で、人を呼びやすくする。

アクセス

- ・ 公共交通の充実（駅前へのアクセスの利便性向上）

本委員会からいただいたキーワード ～目指す施設像の素材～

- ・ 図書館に関わることでの図書館に愛着を持つ人の増加
- ・ 利用価値を高め、伝え、工夫していく場
- ・ 身近な図書館
- ・ 施設ができてからも常に変わり続けることが大事。市民のパワーとコンシェルジュを合わせて、酒田ならではの図書館
- ・ 人に会える場所、人と人が直接交流できる場
- ・ 人と人をつなぐツール
- ・ 幼児から高齢者まで使える図書館
- ・ 図書館の枠を越えた複合施設。中・高・大学生を巻き込んでの「自分たちの施設」づくり

(参考)

◆ 市政運営目標

人財と風土が支える産業・交流都市「酒田」

◆ 酒田コミュニケーションポート（仮称）整備方針（市の方針）

交流（滞在）したくなる、未来の酒田を築く人財育成の支えとなる施設づくりを目指して

～ 人と人（情報、まち）を繋ぎ、多様なコミュニケーションを創出し、新しい風・パワーを生みつつける
ハブ拠点 ～

これまで市民から寄せられた意見一覧

整理番号	施設区分	大分類	小分類	市民意見	意見内容
1	全体	施設	飲食	7/12意見交換会 (子育てママさん)	飲食スペースがほしい。お弁当をもって、小さい子どもと一緒にだと、文化センターだとそのスペースがない。
2	全体	施設	バリアフリー	7/12意見交換会 (子育てママさん)	子どもを抱えていると、傘をさせない等あるので、屋根があると良い。
3	全体	施設	バリアフリー	6月アンケート	子育て中のお母さん達（ベビーカー等）・高齢者（杖や車いす等）に優しい通路（通行、歩きやすいとか）作りをしていただきたいものです。
4	全体	施設	バリアフリー	6月アンケート	障がい者にも優しい施設をお願いします。
5	全体	施設	バリアフリー	6月アンケート	高齢者や体が不自由な方々が疲れたら腰かけられるスペースがたくさんあるとありがたいです。
6	全体	施設	子育て支援	6月アンケート	託児所や子ども広場がほしい。
7	全体	イベント	イベント	6月アンケート	魅力あるイベントを開催してほしい。
8	全体	その他	高齢者	・6月アンケート ・7/20意見交換会 (読み聞かせボラ)	年を重ねても利用できる場所であってほしい。高齢者の居場所としての役割も重要。
9	ライブラリーセンター	運営	人材育成	8/9意見交換会 (アシード)	館長を含めて、中で働く人材が大変重要である。全国から館長を公募するところもあり、新しい風を吹き込むためにも必要。
10	ライブラリーセンター	運営	開館時間	6/28フェイスブック	開館時間を夜9時ぐらいまでにしてほしい。
11	ライブラリーセンター	運営	委託	6月アンケート	図書館は大型書店へ委託できないでしょうか。どこかの市でやっていたような経費削減も必要。
12	ライブラリーセンター	蔵書	地域資料	6/28フェイスブック	地域の資料をきちんと保存し伝えていく役割を大切にしてください。ここへ行ったら、酒田のそして庄内の地域資料がしっかりと閲覧できる事。司書さん達の業務をきちんと認識すること。図書館は未来を支える大事な場所です●□
13	ライブラリーセンター	蔵書	地域資料	6/13地元自治会	光丘文庫の図書も展示するべき。
14	ライブラリーセンター	蔵書	開架図書	7/12意見交換会 (子育てママさん)	児童図書室を良く利用するが、すごく人気の本があるのに、埋もれていて探しにくい。あいうえお順に並んでいるが、作家ごとの陳列があった方が良く思う。
15	ライブラリーセンター	蔵書	開架図書	7/30意見交換会 (読み聞かせボラ)	科学の絵本が無いので、充実してほしい。
16	ライブラリーセンター	蔵書	開架図書	7/12意見交換会 (子育てママさん)	児童図書室のスペースの問題で、子どもの目線で本を探しにくい。平置きできるスペースを充実してほしい。
17	ライブラリーセンター	蔵書	開架図書	6月アンケート	電車待ちの時間を少し潰したいという時にパッと借りることができる本や漫画がたくさんあれば、すごく居心地の良い場所になると思います。
18	ライブラリーセンター	蔵書	開架図書	8/9意見交換会 (アシード)	ターゲットの掘り起しをするには、魅力的な本を紹介する仕掛けが必要。本の目利きできる人や本の見せ方が大事になってくる。
19	ライブラリーセンター	蔵書	閉架図書	6月アンケート	閉架書庫のあり方は重要である。
20	ライブラリーセンター	施設	児童図書室	7/12意見交換会 (子育てママさん)	現在の児童図書室は、狭いので、長居するところではない。本借りたら終わりという感じ。
21	ライブラリーセンター	施設	児童図書室	7/20意見交換会 (読み聞かせボラ)	乳幼児がハイハイできるように、カーペット床は必要。

これまで市民から寄せられた意見一覧

整理番号	施設区分	大分類	小分類	市民意見	意見内容
22	ライブラリーセンター	施設	児童図書室	7/20意見交換会 (読み聞かせボラ)	読み聞かせの際、参加者や講演者が集中できるような環境にしてほしい。また、催しが無い場合は、一般開放できるものであってほしい。
23	ライブラリーセンター	施設	児童図書室	8/9意見交換会 (アシード)	読み聞かせ部屋の規模としては、25名+αが望ましい。
24	ライブラリーセンター	施設	空間	7/12意見交換会 (子育てママさん)	子連れで行くと、声を出しづらい、静かにしなきゃいけないという雰囲気が、すごいプレッシャーで使いづらい。キッズコーナーあるけど、基本静かにしないとイケない。(ひらたタウンセンターに対して)
25	ライブラリーセンター	施設	空間	6/15光陵高生徒会	現在の中央図書館は静かすぎる雰囲気が苦手である。
26	ライブラリーセンター	施設	空間	7/30意見交換会 (読み聞かせボラ)	大人と子どものスペースや、お話し会(読み聞かせ)をするスペースを完全に区切るのではなく、空間の共有ができるソフトバリアードが理想。
27	ライブラリーセンター	施設	空間	6月アンケート	静かな空間があるのが良いと思いました。飲食店などもあって良いと思いますが、カフェなどを図書館の近くに作るのは危険が大きいと思います。
28	ライブラリーセンター	施設	空間	6/15光陵高生徒会	賑わう場所と静かな場所が区分けされてほしい。
29	ライブラリーセンター	施設	カフェ	6月アンケート	カフェのようなところで勉強、読書など、うるさすぎず、静かすぎない場所があれば利用しやすい。
30	ライブラリーセンター	施設	カフェ	6月アンケート	街かどのカフェでお茶を飲みながら本を読み、原稿を書く、あるいは勉強する、そういう図書館に特化されたらと思う。
31	ライブラリーセンター	施設	カフェ	7/30意見交換会 (読み聞かせボラ)	ブックカフェを利用する人は、時間と本を求めていると思うので、カフェの雰囲気は重要である。
32	ライブラリーセンター	施設	学習室	7/12意見交換会 (子育てママさん)	中学生の娘がいるが、友達と一緒に勉強したいと、文化センターの学習室に行くけど、いっぱいだめという日が多い。
33	ライブラリーセンター	施設	学生	7/12意見交換会 (子育てママさん)	高校生がお金を使わずに過ごせる場所がほしい。どうしても、今は、カラオケ行ったり、コンビニ行ったり、ゲー行ったりして時間潰すしかない。
34	ライブラリーセンター	施設	学生	6月アンケート	学生が利用しやすい施設にしてほしい。
35	ライブラリーセンター	施設	返却方法	7/12意見交換会 (子育てママさん)	子どもを抱えて返却のためだけに図書館に行くとき、ドライブスルーみたい形で簡単に返却できるようにならないか。小さい子どもを抱えると、乗り降りだけでも負担になる。
36	ライブラリーセンター	施設	返却方法	7/12意見交換会 (子育てママさん)	中央図書館の返却ポストは、閉館時間しか使えないので、開館時間も利用できるようにしてほしい。
37	ライブラリーセンター	施設	返却方法	7/30意見交換会 (読み聞かせボラ)	夜間、休館日の返却ボックスを分かりやすくしてほしい。
38	ライブラリーセンター	施設	その他	6月アンケート	遊びの入った図書館がほしい。もっとワクワクさせて！
39	ライブラリーセンター	施設	その他	7/20意見交換会 (読み聞かせボラ)	多目的な活動に利用できる部屋があってほしい。
40	ライブラリーセンター	施設	その他	7/20意見交換会 (読み聞かせボラ)	図書館ボランティア団体のための備品倉庫が備わっているとありがたい。
41	ライブラリーセンター	情報発信	情報発信	6月アンケート	酒田の美味しい物。職人の技、世界へ向けての発信等のスペースが良いかと思っています。

これまで市民から寄せられた意見一覧

整理番号	施設区分	大分類	小分類	市民意見	意見内容
42	ライブラリーセンター	情報発信	情報発信	6月アンケート	駅に来ると酒田の全てが分かるようにしてもらいたい。酒田の情報発信コーナーの充実を。港、歴史、文化、文学（吉野弘、松尾芭蕉・・・）、芸術（土門拳、岸洋子・・・）、食など、点在しているものを一堂に集める。
43	ライブラリーセンター	その他	その他	8/9意見交換会 (アシード)	各地区のコミュニティセンターの図書の実用が必要である。
44	ライブラリーセンター	その他	その他	8/9意見交換会 (アシード)	読書に対する意識の格差が懸念される。
45	観光情報センター	物産	お土産	6月アンケート	外から旅行などで来た人にとって、酒田の特産のものがたくさんあると喜んでくれると思います。今の駅前には酒田のそういうものが少ないような気がするので、おいしい果物やお菓子、お酒などを売れる施設があれば、リターンしてくれるお客さんも増えるのではないかと思います。
46	駐車場	駐車場	立地環境	7/12意見交換会 (子育てママさん)	現在の図書館は、駐車場が近くにあるので良い。駐車場が離れていると、小さい子どもを抱えていると行きたくなくなるかなと思う。
47	駐車場	駐車場	料金	・7/12意見交換会 (子育てママさん) ・6月アンケート	酒田は車社会なので、駐車場が無いといけない。また、無料にしてほしい。
48	駐車場	駐車場	台数	6月アンケートほか	駐車台数は、十分に確保してほしい。
49	駐車場	駐車場	駐車スペース	7/12意見交換会 (子育てママさん)	1台当たりの駐車スペースは広く取ってほしい。
50	バスベイ	公共交通	公共交通	7/12意見交換会 (子育てママさん)	公共交通の充実をお願いしたい。
51	バスベイ	公共交通	公共交通	6月アンケート	観光客、登山客（鳥海山等）の交通手段の充実
52	広場	施設	施設	7/12意見交換会 (子育てママさん)	噴水等の水遊び場が無いので、ぜひ整備してほしい。
53	広場	施設	緑化	6月アンケート	樹木、草スペースを多く取り入れてほしい。

酒田コミュニケーションポート（仮称）基本計画 市民ワークショップ

1 日 時

- 第1回 平成28年9月22日（木）祝日 午前9時30分～12時30分
- 第2回 平成28年10月2日（日） 午前9時30分～12時30分
- 第3回 平成28年10月22日（土） 午後1時～4時

2 場 所 交流ひろば1階

3 内 容

- 第1回 ミニレクチャー及びブレインライティング（短時間にたくさんのアイデアを出す手法）による導入

①ミニレクチャー「図書館を中心とした公共施設整備事例紹介」

【ねらい】図書館を中心とした複合公共施設整備の事例について紹介することで、つくられる施設のイメージを持ってもらう。

【内 容】図書館を中心とした再開発・まちづくりの実際の事例のポイントを説明。集客力がある図書館だが、人がいっぱい来ればそれでいいというものではなく、学びと人の成長に結びつく場であり、地域の課題解決につながる場であることを意識してもらう。

子育て支援、学校との連携による読書・調べる学習支援、観光支援など地域の施設との連携も必要、郷土資料の活用、ICT を用いた発信なども考えていかなければならないことを意識してもらう。

②ブレインライティング「新施設に必要な機能、欲しい機能を考える」

【ねらい】市民が施設に必要と思う機能、欲しいと思う機能について、酒田コミュニケーションポート（仮称）の事業コンセプトに沿って意見を出し合う。

単にあれが欲しい、これが欲しい、ということで終わるのではなく、酒田の観光情報拠点、にぎわいと交流の拠点、人財育成拠点になる、そこに自分たちも参加して作り上げていく、という自覚を持ってもらったうえで、意見を出してもらう。酒田コミュニケーションポート（仮称）として整備する5つの公共施設全体を見渡しての意見を出してもらう。

【内 容】参加者にグループに分かれてもらい、テーマについて出せるだけのアイデアを出してもらった上で、グループでまとめてもらい発表する。

出された意見をテーマ別に分類する。メンバーが共感する意見が多かったものを中心にまとめてもらう。

発表された内容について当方からコメントする。

●第2回 酒田市らしさを施設に活かそう

①振り返り

1回目の内容を振り返る。

②ブレインライティング「施設に活かす酒田らしさを考えよう」

【ねらい】単なる駅前再開発事業ではなく、酒田らしさを活かすものでなくてはならない。そこで、市民に「酒田らしさ」とは何か、を考えてもらい、それを施設の機能やサービスに活かすにはどうすればいいか、を話し合ってもらおう。

「酒田らしさ」にもいろいろな角度がある。歴史文化遺産、自然、食、産業、観光など。日常の生活や仕事の中にある、地元の人のみが知っている酒田の魅力もあるかもしれない。それらを掘り起こし、見つめ直し、市民共有の財産として、1回目で考えた「必要な機能」とどのように連動させ、施設計画やサービス計画に活かしていけばいいかを考える。

【内容】参加者にグループに分かれてもらい、テーマについて出せるだけのアイデアを出してもらった上で、グループでまとめてもらい発表する。

出された意見をテーマ別に分類する。メンバーが共感する意見が多かったものを中心にまとめてもらう。

発表された内容について当方からコメントする。

●第3回 情報発信とまちの回遊性を考えよう

①振り返り

1回目・2回目の内容を振り返る

②グループワーク「新しい施設の使い方を考える」

【ねらい】1回目で考えた施設の機能（ハード）、2回目で考えた酒田らしさ（ソフト）を踏まえ、酒田コミュニケーションポート（仮称）をどのように使いたいか、5つの公共施設全体を見渡して施設活用のストーリーを考える。

【内容】ハードとソフトを活かした施設の使い方について、例えば「市民による酒田の魅力発信活動」「施設を起点とした回遊コース作成」など、具体的なアイデアをグループワークでまとめ、発表する。

4 その他

- ①募集定員 中学生以上40名
- ②募集開始 8月16日号広報
- ③託児機能等 参加者の希望に応じて会場に託児機能を設置。障がい者サポートも予定。

主役は市民の皆さんです！

酒田駅前
(全3回開催)

酒田コミュニケーションポート（仮称）整備

ワークショップ 参加者募集！

あののも、
参加しようかな



酒田駅前に新しく整備する予定の複合公共施設「酒田コミュニケーションポート（仮称）」。ライブラリーセンター、観光情報センター、広場、駐車場、バスベイという、5つの機能からなるこの施設を、市民だれもが使いやすく、市外から酒田を訪れる人たちにとって魅力あふれる場とするには、何が必要かを一緒に考えるワークショップ（全3回）を開催します。

駅前公共施設の未来について、楽しくお話してみませんか？多くの皆さんの参加をお待ちしています。



第1回 「新しい施設に必要な機能、 欲しい機能を考えよう」

平成28年9月22日（祝） 午前9時半～午後0時半

新しい施設に必要なと思う機能、あったらいいなと思う設備などについて、最新の公共施設整備事例などをもとに考えます。

第2回 「酒田らしさを施設に活かそう」

平成28年10月2日（日） 午前9時半～午後0時半

新しい施設に「酒田らしさ」を加え、酒田の魅力を知り、発信するために、どのようなサービスがあればいいかを考えます。

第3回 「新しい施設の使い方を考えよう」

平成28年10月22日（土） 午後1時～午後4時

1回目と2回目の成果をもとに、新しい施設をどのように使っていきたいか、具体的なストーリーを作ります。

会場

交流ひろば1階
酒田市中町3-4-5

駐車場

隣接の中町サウンパーキングが無料で利用できます。

参加対象

本市在住または通勤・通学
の中学生以上
(定員40名)

※3回とも参加できる方歓迎。
※定員を超えた場合は抽選になります。

※小さなお子様連れの方、障がいのある方は、お申し込み時にお知らせください。

託児OK

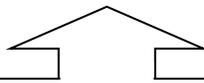


問い合わせ先：酒田市企画振興部都市デザイン課

Tel:26-6274/FAX:26-6482

e-mail:toshi-design@city.sakata.lg.jp

申込書は
裏面へ



【郵送】 〒998-8540 (住所不要) 酒田市都市デザイン課 宛
 【ファクシミリ】 FAX 26-6482
 【Eメール】 E-mail toshi-design@city.sakata.lg.jp

「酒田コミュニケーションポート(仮称)ワークショップ」参加申込書

申込み締切日 = 平成28年9月15日(木)

平成 28 年 月 日

次のとおり、酒田コミュニケーションポート(仮称)ワークショップに申し込みます。

ふりがな		性別
氏名		男・女
住所	〒 —	
年齢	10代 20代 30代 40代 50代 60～74歳 75歳以上	
電話	() — (自宅・携帯・その他)	
Eメール	(PC・携帯)	
職業	会社員・公務員・自営業・大学生・高校生・中学生・その他()	
通信欄	(参加しようと思った理由、抱負、駅前公共施設について思うことなどがあれば、自由に記入してください。)	
託児	・託児希望する(名) ・希望しない	
	託児希望の方は、ご記入ください。 ・0歳～1歳(名) ・2歳～4歳(名) ・5歳以上(名)	
その他	(参加にあたり、スタッフサポート(車椅子補助や筆談スタッフ等)が必要な方は、その旨をご記入ください。)	

※ワークショップお申し込みの結果は、当課より電話またはメールにてご連絡させていただきます。
 ※上記に記入いただいた個人情報は、酒田コミュニケーションポート(仮称)ワークショップの運営についてのみ使用し、他の目的には使用しません。